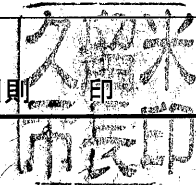


Ver 1.2

オフセット・クレジット(J-VER)制度に基づく 温室効果ガス吸収プロジェクト計画書

プロジェクト名	久留米市田主丸財産区 間伐推進プロジェクト
プロジェクト 代表事業者名	久留米市田主丸財産区 管理者 久留米市長 檜原 利則



提出日 2010年12月27日
受理日 2010年12月27日
最終版提出日 2011年3月28日

A:参加者情報			
プロジェクト代表事業者 ※1			
事業者名(フリガナ)	久留米市田主丸財産区 (クルメシタヌシマルザイサンク)		
住所	福岡県久留米市城南町 15 番地 3		
代表者氏名	久留米市長 榎原 利則	担当者氏名	矢野 正治
担当者所属	田主丸総合支所産業振興課	担当者役職	課長
担当者 E-mail	myano@city.kurume.fukuoka.jp	担当者電話番号	0943-72-2110
プロジェクトでの役割	プロジェクト実施者・クレジット取得者		
プロジェクト事業者 ※2			
事業者名(フリガナ)	久留米市田主丸財産区 (クルメシタヌシマルザイサンク)		
住所	福岡県久留米市城南町 15 番地 3		
代表者氏名	久留米市長 榎原 利則	担当者氏名	矢野 正治
担当者所属	田主丸総合支所産業振興課	担当者役職	課長
担当者 E-mail	myano@city.kurume.fukuoka.jp	担当者電話番号	0943-72-2110
プロジェクトでの役割	プロジェクト実施者・クレジット取得者		
プロジェクト参加者 ※3,4			
事業者名(フリガナ)			
住所			
代表者氏名		担当者氏名	
担当者所属		担当者役職	
担当者 E-mail		担当者電話番号	
プロジェクトでの役割			
オフセット・クレジット(J-VER)取得予定者 ※5			
事業者名(フリガナ)	久留米市田主丸財産区 (クルメシタヌシマルザイサンク)		
オフセット・クレジット (J-VER)口座番号 ※6			
ダブルカウントの防止措 置を講ずる事業者	久留米市田主丸財産区 (クルメシタヌシマルザイサンク)		
公的な報告・公表制度	なし		
自主的な報告・公表対象	なし		

※1:プロジェクト代表事業者のパンフレット等、事業内容の説明資料を別途添付すること。プロジェクト代表事業者以外の主なプロジェクト事業者・プロジェクト参加者についてもパンフレット等を添付すること。

※2:プロジェクト事業者とは、当該プロジェクトの実施に携わる者のうち、実際に温室効果ガス吸収活動を実施する者を指す。プロジェクト代表事業者と同一の場合は、その旨を記載すること。

※3:プロジェクト参加者とは、プロジェクト代表事業者・プロジェクト事業者以外に当該プロジェクトの実施に携わるすべての

者を指す。

- ※4: プロジェクト参加者が複数いる場合には、それぞれの参加者の役割及び関係の概要を説明した資料を添付すること。
- ※5: オフセット・クレジット(J-VER)取得予定者は、プロジェクト代表事業者、プロジェクト事業者、プロジェクト参加者のうちのいずれかであること。
- ※6: オフセット・クレジット(J-VER)口座番号は、口座未取得の場合は記入不要。
- ※7: オフセット・クレジット(J-VER)の発行がなされる場合、ダブルカウントを避けるための所要の措置をとる義務が生じる。詳細は、オフセット・クレジット(J-VER)制度利用約款を参照すること。

B: プロジェクト活動の概要①

B.1 プロジェクト活動

項目

B.1.1 プロジェクトの目的及び内容

本プロジェクトは、福岡県久留米市田主丸町の田主丸財産区有林において森林施業計画に基づいた適切な間伐の実施による対象森林の健全な水源かん養機能・山地災害防止機能を持続的に管理及び維持するとともに、田主丸財産区有林での二酸化炭素吸収量の維持・増加を目的とし、J-VER クレジット発行による追加的資金より、持続可能な森林経営を実現していく。

B.1.2 プロジェクト実施前の状況

久留米市は、筑後平野の中央に位置し、人口30万人を有する福岡県南部の中核都市である。

また、市の東部から西部にかけて九州一の大河・筑後川が還流し、その南側に沿って耳納連山が走り、最高峰鷹取山(標高802m)が南東部に位置する。その山間を高良川などの支流となる河川が流れ、筑後川に注いでいる。気候は、内陸型の有明気候区に属し、気温の年較差や降水量の年変化が大きいものの雪は少なく、温暖で四季の変化に富んでいる。

本プロジェクトの対象となる久留米市田主丸財産区は耳納連山の北側斜面の一带に広がり森林面積およそ770haである。その内訳は保安林505ha・普通林265ha(内植林面積はおおよそ736haであり、ヒノキ70%スギ30%)となっている。

また、久留米市田主丸地区は農業が盛んな地域であり、本財産区の森林は裾野の水源涵養並びに防災機能に重要な役割を担っている。さらには、これらの森林は、林産物の供給や地域住民の憩いの場としてなど多面的な機能の発揮が一層期待されるようになってきている。

田主丸財産区の森林構成

樹種	スギ	ヒノキ	アカマツ	クヌギ	天然生林	計 ha
面積	216.79	516.82	1.13	1.52	34.4	770.66

プロジェクト対象地

令級	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計
スギ		1.69		2.68		0.63	9.43	7.77	34.64	43.85	24.55	8.03	133.27
ヒノキ	0.86	26.98	14.06	11.82	32.05	36.65	50.86	62.13	72.32	64.98	18.39	5.31	396.41
計	0.86	28.67	14.06	14.50	32.05	37.28	60.29	69.90	106.96	108.83	42.94	13.34	529.68

	<p>B.1.3 排出削減・吸収の達成手段</p> <p>① スギ・ヒノキの人工林については、皆伐の実施予定はされていない。30%以下の間伐により森林の山地災害防止機能に支障を来さない程度の間伐とする。</p> <p>② 間伐については、スギ・ヒノキともに材積率30%以下の間伐率とし定性間伐とする。間伐間隔は 5年から 10 年の間を目安とするが樹冠のうっ閉状況をみて適期に実施する。</p> <p>③ プロジェクト対象地については今後も間伐(定性間伐)等の森林管理を適正に行い、林木の成長や下層植生の発達を確保しつつ、複層林施業や長伐期施業による高齢級・高蓄積森林へ誘導することを推進する。</p>																															
<p>B.2 採用技術</p>	<p>プロジェクトで使用する設備・機器等 (プロジェクトで使用する機器名称、機器メーカー名、型番、機器容量、法定耐用年数、導入年月、用途等について記載すること。(モニタリングに用いた機器は、最新のものに限らず全て記載すること))</p> <table border="1" data-bbox="352 600 1362 958"> <thead> <tr> <th>機器名</th> <th>メーカー名</th> <th>耐用年数</th> <th>導入時期</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Juno-SB</td> <td>トリンプル</td> <td>4 年</td> <td>平成 21 年 12 月</td> <td>GPS 端末</td> </tr> <tr> <td>GP Pocket</td> <td>ジッタ</td> <td>3 年</td> <td>平成 21 年 12 月</td> <td>GPS データ処理ソフト</td> </tr> <tr> <td>Pathfinder Pro XT</td> <td>トリンプル</td> <td>5 年</td> <td>平成 21 年 12 月</td> <td>GPS 受信機</td> </tr> <tr> <td>TRUE PULSE 360B</td> <td>レーザーテクノロジー</td> <td>5 年</td> <td>平成 21 年 12 月</td> <td>樹高測定器</td> </tr> <tr> <td>輪尺</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>胸高直径測定</td> </tr> </tbody> </table>		機器名	メーカー名	耐用年数	導入時期	備考	Juno-SB	トリンプル	4 年	平成 21 年 12 月	GPS 端末	GP Pocket	ジッタ	3 年	平成 21 年 12 月	GPS データ処理ソフト	Pathfinder Pro XT	トリンプル	5 年	平成 21 年 12 月	GPS 受信機	TRUE PULSE 360B	レーザーテクノロジー	5 年	平成 21 年 12 月	樹高測定器	輪尺				胸高直径測定
機器名	メーカー名	耐用年数	導入時期	備考																												
Juno-SB	トリンプル	4 年	平成 21 年 12 月	GPS 端末																												
GP Pocket	ジッタ	3 年	平成 21 年 12 月	GPS データ処理ソフト																												
Pathfinder Pro XT	トリンプル	5 年	平成 21 年 12 月	GPS 受信機																												
TRUE PULSE 360B	レーザーテクノロジー	5 年	平成 21 年 12 月	樹高測定器																												
輪尺				胸高直径測定																												
<p>B.3 プロジェクト実施場所</p>	<p>実施事業所名</p>	<p>久留米市田主丸財産区</p>																														

	<p>住所</p>	<p> 福岡県久留米市田主丸町中尾字耳納 2255 番地 福岡県久留米市田主丸町中尾字耳納 2254 番地 2 福岡県久留米市田主丸町中尾字耳納 2252 番地 91 福岡県久留米市田主丸町竹野字耳納 2225 番地 103 福岡県久留米市田主丸町竹野字耳納 2225 番地 102 福岡県久留米市田主丸町竹野字耳納 2225 番地 101 福岡県久留米市田主丸町竹野字耳納 2225 番地 105 福岡県久留米市田主丸町竹野字耳納 2227 番地 3 福岡県久留米市田主丸町竹野字耳納 2225 番地 104 福岡県久留米市田主丸町竹野字耳納 2226 番地 2 福岡県久留米市田主丸町竹野字耳納 2225 番地 100 福岡県久留米市田主丸町地徳字耳納尾 3570 番地 2 福岡県久留米市田主丸町地徳字耳納尾 3571 番地 福岡県久留米市田主丸町地徳字耳納尾 3572 番地 福岡県久留米市田主丸町地徳字白建石 3663 番地 2 福岡県久留米市田主丸町地徳字白建石 3666 番地 福岡県久留米市田主丸町地徳字鳥越山 3461 番地 1 福岡県久留米市田主丸町地徳字鳥越山 3461 番地 4 福岡県久留米市田主丸町地徳字鳥越山 3461 番地 5 福岡県久留米市田主丸町地徳字鳥越山 3459 番地 福岡県久留米市田主丸町地徳字鳥越山 3460 番地 1 福岡県久留米市田主丸町地徳字鳥越山 3456 番地 2 福岡県久留米市田主丸町益生田字大平 230 番地 福岡県久留米市田主丸町益生田字平床 2268 番地 福岡県久留米市田主丸町益生田字中尾 2169 番地 1 福岡県久留米市田主丸町益生田字馬場 2134 番地 1 福岡県久留米市田主丸町益生田字中尾 2170 番地 2 福岡県久留米市田主丸町益生田字小芝原 2174 番地 福岡県久留米市田主丸町益生字東葛尾 2168 番地 1 福岡県久留米市田主丸町益生字東葛尾 2168 番地 2 福岡県久留米市田主丸町益生田字鏡懸 2267 番地 1 福岡県久留米市田主丸町益生田字鏡懸 2267 番地 6 福岡県久留米市田主丸町益生田字高丸 744 番地 福岡県久留米市田主丸町石垣字冥荷谷 1401 番地 福岡県久留米市田主丸町石垣字耳納 1409 番地 1 福岡県久留米市田主丸町石垣字鳥越 1273 番地 4 福岡県久留米市田主丸町森部字水船谷 1316 番地 福岡県久留米市田主丸町石垣字鳥越 1273 番地 5 福岡県久留米市田主丸町石垣字城ヶ谷 1403 番地 23 福岡県久留米市田主丸町石垣字風呂谷 1400 番地 福岡県久留米市田主丸町石垣字大塚清長橋 1395 番地 4 福岡県久留米市田主丸町石垣字大塚清長橋 1398 番地 福岡県久留米市田主丸町石垣字耳納 1409 番地 3 福岡県久留米市田主丸町森部字平原 1320 番地 2 福岡県久留米市田主丸町森部字下平床 1314 番地 2 福岡県久留米市田主丸町森部字笹ヶ谷 1299 番地 2 福岡県久留米市田主丸町森部字桂尾 1312 番地 福岡県うきは市吉井町鷹取字京の尾 1587 番地 3 福岡県うきは市吉井町鷹取字京の尾 1587 番地 14 福岡県久留米市田主丸町森部字エグ水 1319 番地 2 福岡県久留米市田主丸町森部字耳納 1324 番地 1 福岡県久留米市田主丸町森部字平原 1320 番地 1 福岡県久留米市田主丸町森部字京の尾 1311 番地 6 福岡県うきは市吉井町鷹取字京の尾 1587 番地 13 福岡県うきは市吉井町福益字小城 1985 番地 1 </p>
--	-----------	---

久留米市位置図



概要

プロジェクト対象地となる田主丸財産区は福岡県の中南部の久留米市東部に位置した耳納連山の北側に位置する。



B:プロジェクト活動の概要②						
B.4 プロジェクト期間	2009年 4月 1日 ~ 2013年3月31日 (4年0ヶ月)					
B.5 クレジット期間 ※1	2009年 4月 1日 ~ 2013年3月31日					
B.6 想定排出削減・吸収量 ※2	年度	2009	2010	2011	2012	合計
	t-CO2	648	1,412	2,572	3,564	8,196
B.7 モニタリング報告の頻度	クレジット発行時					
B.8 補助金	受給の有無 (いずれかに○)	受給している				
	補助事業名称	平成21年度流域育成林整備(機能増進保育【抜き取り等】)補助金				
	補助金額 (申請額含む)	事業費 1,557,400円 補助金額 622,960円				
	補助対象年月日	2009年 4月 1日 ~ 2010年 3月31日				
	補助金を受給している ことを証明する書類	(施業履歴及び林齢樹種ごとの実測面積の証跡として使用する補助金受給事業については、資料を必ず添付すること)				
B.9 他制度への申請 ※3	申請の有無 (いずれかに○)	無				
	制度名 (有の場合のみ)	該当なし				
備考	<p>・林野火災発生及び自然災害の危険性と予防措置 受託業者への指導を行い火気の取扱いを徹底し、森林火災のリスクを軽減させる。火災発生時においては、地域消防団関係機関と連絡を密にし、的確及び迅速な消防活動を実施、周辺の谷川などを水利として消化活動へ利用する。また、台風等の自然災害においては林道網を用い巡視し林木被害の発生状況の把握に努める。</p> <p>・鳥獣害及び病虫害 ニホンジカ等の林木への食害は発生していない。また顕著な 病中害も見られない。今後も被害の発生状況の把握に努める。</p>					

※1: クレジット期間は、2008年4月1日~2013年3月31日の間で設定すること。

※2: 想定排出削減・吸収量の算定根拠をモニタリングプランで提示すること。

※3: 海外の VER 制度や都道府県等のCO2吸収量認証等、類似制度への申請の有無を記入。これは、一つのプロジェクトによる排出削減・吸収量に基づくクレジットが複数創出される等の、ダブルカウントを避けるためである。

C:方法論の適用		
C.1 ポジティブリストの適格性基準との整合性	C.1.1 ポジティブリストの番号	JRAM.001. <u>Ver.4.1</u>
	条 件	説 明 ※1
	C.1.2 条件1	本プロジェクトの対象地は、森林計画対象の森林であり、森林法第5条に定める森林である。 (資料2)
	C.1.3 条件2	<ul style="list-style-type: none"> ・森林施業計画対象の中で2007年から2013年までの期間に間伐が行われる林分を対象とする。 ・本対象地での土地の転用はクレジット期間内には計画されていない。 ・主伐はクレジット期間内において計画されていない。 ・施業計画の期間は 2009 年 12 月 1 日～2014 年 11 月 30 日まで
C.1.4 条件3	<p>本プロジェクトの対象地は、福岡県の認定を受けた以下の森林施業計画対象林である。</p> <p>1 施業計画の認定番号 <u>21001001-00-0</u> 2 施業計画名所 久留米市田主丸財産区 3 面積(ha) 770.28</p> <p>森林施業計画は、森林法第 11 条第 1 項及び同法第 19 条第 1 項第 1 号の規定により福岡県知事から適当であると認定されたものであり、森林施業計画の長期の方針に基づいて、適切な間伐等の更新を行い、持続的な森林経営を実施する。</p>	
C.2 適用方法論	方法論番号	No.R.001 <u>Ver. 4.1</u>
	方法論名称	森林経営活動による CO2 吸収量の増大(間伐促進型プロジェクト)に関する方法論

C.3 適用するガイドライン等	C.3.1 ガイドライン等への準拠	(オフセット・クレジット(J-VER)制度モニタリング方法ガイドラインに準拠しない場合の説明)																			
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>準拠の説明</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/> 全く準拠しない</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 一部準拠しない</td> <td>福岡県は収穫予想表として福岡県材積表を採用している。当材積表は地位別樹高曲線表がなく、福岡県林業試験場より取り寄せた。この地位別樹高曲線表は福岡県材積表に関連していることを林業試験場に確認している。</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 全て準拠する</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	準拠の説明	説明	<input type="checkbox"/> 全く準拠しない		<input checked="" type="checkbox"/> 一部準拠しない	福岡県は収穫予想表として福岡県材積表を採用している。当材積表は地位別樹高曲線表がなく、福岡県林業試験場より取り寄せた。この地位別樹高曲線表は福岡県材積表に関連していることを林業試験場に確認している。	<input type="checkbox"/> 全て準拠する		注) 全て準拠する場合は、説明は不要。										
準拠の説明	説明																				
<input type="checkbox"/> 全く準拠しない																					
<input checked="" type="checkbox"/> 一部準拠しない	福岡県は収穫予想表として福岡県材積表を採用している。当材積表は地位別樹高曲線表がなく、福岡県林業試験場より取り寄せた。この地位別樹高曲線表は福岡県材積表に関連していることを林業試験場に確認している。																				
<input type="checkbox"/> 全て準拠する																					
	C.3.2 ガイドライン等が複数ある場合の選択	(オフセット・クレジット(J-VER)制度モニタリング方法ガイドラインのモニタリングパターンを選択する場合)																			
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>モニタリングパラメータ</th> <th>モニタリングパターン</th> <th>選択の理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">活動量</td> <td><input type="checkbox"/> 森林 GIS</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 実測</td> <td>GPS測量に基づく方法</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">拡大係数</td> <td><input type="checkbox"/> 実測</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 公表資料、学術論文等</td> <td>「京都議定書3条3及び4の下でのLULUCF 活動の補足情報に関する報告書」を使用</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">収穫予想表</td> <td><input type="checkbox"/> システム収穫表 (LYCS 等)</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 文献・資料(行政機関の資料・学術論文等)</td> <td>福岡県材積表(1995年版) 100から105 ページ 福岡県において、収穫予想に関しては全て福岡県材積表を用いている。</td> </tr> </tbody> </table>	モニタリングパラメータ	モニタリングパターン	選択の理由	活動量	<input type="checkbox"/> 森林 GIS		<input checked="" type="checkbox"/> 実測	GPS測量に基づく方法	拡大係数	<input type="checkbox"/> 実測		<input checked="" type="checkbox"/> 公表資料、学術論文等	「京都議定書3条3及び4の下でのLULUCF 活動の補足情報に関する報告書」を使用	収穫予想表	<input type="checkbox"/> システム収穫表 (LYCS 等)		<input checked="" type="checkbox"/> 文献・資料(行政機関の資料・学術論文等)	福岡県材積表(1995年版) 100から105 ページ 福岡県において、収穫予想に関しては全て福岡県材積表を用いている。	注) 選択理由の説明においては、証拠書類等の該当箇所が明確になるよう、対応ページ・箇所の明示を行うこと。なお、説明に使用した資料は、名称及び添付資料番号を明記し、巻末の添付資料一覧に整理すること。
モニタリングパラメータ	モニタリングパターン	選択の理由																			
活動量	<input type="checkbox"/> 森林 GIS																				
	<input checked="" type="checkbox"/> 実測	GPS測量に基づく方法																			
拡大係数	<input type="checkbox"/> 実測																				
	<input checked="" type="checkbox"/> 公表資料、学術論文等	「京都議定書3条3及び4の下でのLULUCF 活動の補足情報に関する報告書」を使用																			
収穫予想表	<input type="checkbox"/> システム収穫表 (LYCS 等)																				
	<input checked="" type="checkbox"/> 文献・資料(行政機関の資料・学術論文等)	福岡県材積表(1995年版) 100から105 ページ 福岡県において、収穫予想に関しては全て福岡県材積表を用いている。																			

C.4 プロジェクトが実施されなかった場合の状態(ベースラインシナリオ)	C.4.1 ベースラインシナリオ(BLS)の特定	(プロジェクトが実施されなかった場合の状態(ベースラインシナリオ)の説明)	
		森林を適切な状態に保つための必要な措置として間伐が十分に実施されないことにより、林木の成長が阻害され森林の下層植生が貧弱になる状態。	
		(ベースラインシナリオ特定に使用したデータの信頼性・入手可能性)	
		データの信頼性・入手可能性	説明
<input type="checkbox"/> 低い			
<input checked="" type="checkbox"/> 低くない			
(森林施業計画通りに施業を実施しない可能性に関する情報)			
施業計画通りに実施しない可能性	説明		
<input checked="" type="checkbox"/> 可能性がある	自然災害のため間伐促進が進まないことが考えられる。		
<input type="checkbox"/> 可能性がない			
(プロジェクトの対象である森林が転用される可能性に関する情報)			
転用の可能性	説明		
<input type="checkbox"/> 可能性がある			
<input checked="" type="checkbox"/> 可能性がない			

	<p>C.4.2BLS に 関連した温 室効果ガス 排出源・吸収 源の特定</p>	<p>(温室効果ガス排出源・吸収源)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>温室効果ガス排出源・吸収源</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>森林プロジェクトで対象となる排出源・吸収源</td> <td>地上部バイオマス 地下部バイオマス</td> </tr> <tr> <td>上記に含まれないプロジェクト固有の排出源・吸収源</td> <td>なし</td> </tr> </tbody> </table> <p>リーケージに関しては、以下のリストから該当するものがあればボックスにチェックを入れること。また、チェックしたリーケージは、モニタリングプランにおいて定量化すること。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>リーケージの種類</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/> 本プロジェクト実施による、プロジェクト対象地外での吸収量を減少させる活動の増加</td> <td>該当なし</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 本プロジェクト実施による、プロジェクト対象地外における排出量を増加させる活動の増加</td> <td>該当なし</td> </tr> </tbody> </table> <p>(温室効果ガス排出源・吸収源を特定するために使用した追加的な基準)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>温室効果ガス排出源・吸収源 特定のための追加的な基準</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/> 使用</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 使用しない</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	温室効果ガス排出源・吸収源	説明	森林プロジェクトで対象となる排出源・吸収源	地上部バイオマス 地下部バイオマス	上記に含まれないプロジェクト固有の排出源・吸収源	なし	リーケージの種類	説明	<input type="checkbox"/> 本プロジェクト実施による、プロジェクト対象地外での吸収量を減少させる活動の増加	該当なし	<input type="checkbox"/> 本プロジェクト実施による、プロジェクト対象地外における排出量を増加させる活動の増加	該当なし	温室効果ガス排出源・吸収源 特定のための追加的な基準	説明	<input type="checkbox"/> 使用		<input checked="" type="checkbox"/> 使用しない	
温室効果ガス排出源・吸収源	説明																			
森林プロジェクトで対象となる排出源・吸収源	地上部バイオマス 地下部バイオマス																			
上記に含まれないプロジェクト固有の排出源・吸収源	なし																			
リーケージの種類	説明																			
<input type="checkbox"/> 本プロジェクト実施による、プロジェクト対象地外での吸収量を減少させる活動の増加	該当なし																			
<input type="checkbox"/> 本プロジェクト実施による、プロジェクト対象地外における排出量を増加させる活動の増加	該当なし																			
温室効果ガス排出源・吸収源 特定のための追加的な基準	説明																			
<input type="checkbox"/> 使用																				
<input checked="" type="checkbox"/> 使用しない																				
<p>C.5 排出量・ 吸収量の定 量化</p>	<p>C.5.1 不確かなデータの使 用</p>	<p>(吸収量の定量化における不確かなデータの使用)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>不確かなデータの使 用</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/> 使用する</td> <td>(不確かなデータを使用することによる吸収量の過大評価がないことを説明すること。)</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 使用しない</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	不確かなデータの使 用	説明	<input type="checkbox"/> 使用する	(不確かなデータを使用することによる吸収量の過大評価がないことを説明すること。)	<input checked="" type="checkbox"/> 使用しない													
不確かなデータの使 用	説明																			
<input type="checkbox"/> 使用する	(不確かなデータを使用することによる吸収量の過大評価がないことを説明すること。)																			
<input checked="" type="checkbox"/> 使用しない																				

	C.5.2 モニタリング対象とならない排出源・吸収源	<p>(モニタリングプランを作成する上で、モニタリング報告対象とならないプロジェクト固有の排出源・吸収源が存在する)</p> <table border="1" data-bbox="528 327 1374 573"> <thead> <tr> <th data-bbox="528 327 842 472">モニタリング報告対象とならないプロジェクト固有の排出源・吸収源</th> <th data-bbox="842 327 1374 472">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="528 472 842 521"><input type="checkbox"/> 存在する</td> <td data-bbox="842 472 1374 521"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="528 521 842 573"><input checked="" type="checkbox"/> 存在しない</td> <td data-bbox="842 521 1374 573"></td> </tr> </tbody> </table>	モニタリング報告対象とならないプロジェクト固有の排出源・吸収源	説明	<input type="checkbox"/> 存在する		<input checked="" type="checkbox"/> 存在しない	
モニタリング報告対象とならないプロジェクト固有の排出源・吸収源	説明							
<input type="checkbox"/> 存在する								
<input checked="" type="checkbox"/> 存在しない								
C.6 モニタリングプロットの設置		<p>(モニタリングプロットの設定方法に関する記述)</p> <p>本プロジェクト対象地は耳納山地の北側斜面一帯に分布し標高は 150m からおよそ 800m までに位置する。森林施業計画の施業計画番号単位にモニタリングプロットを設定し、森林計画図の情報を踏まえ、標高分布や地形・土壌・林層が類似するところをグループ化し、モニタリングポイントとする。</p> <p>(モニタリングプロットに対応した資料の準備)</p> <p>プロット地点としては、グループ化した範囲内において、少なくとも30ha以内に1箇所標準的若しくは保守的な推計が出来るようなモニタリングポイントの中心点にプロットを設定する。(資料3-3)</p>						
C.7 備考		なし						

※1: ポジティブリストの条件を全て満たすことを、証拠書類等をもとに説明する。説明にあたっては、証拠書類等の該当箇所が明確になるよう、対応ページ・箇所の明示を行うこと。なお、説明に使用した資料は、名称及び添付資料番号を明記し、巻末の添付資料一覧に整理すること。

D:その他

(想定される関連法令等については、別紙「オフセット・クレジット(J-VER)制度における手続きについて」の方法論ごとの記載を参照のこと)

なお、ここに記載した法令等は、あくまでも想定される主な法令であり、他にも関連する法令等の有無について確認すること。

D.1 関連する許認可及び関連法令

		該当しない	該当する
1	森林・林業基本法	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 第 9 条森林所有者としての責務 <input type="checkbox"/> その他(具体的に:)
2	森林法	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 第 5 条地域森林計画 <input checked="" type="checkbox"/> 第 11 条第 1 項及び第 19 条第 1 項森林施業計画 <input checked="" type="checkbox"/> その他(具体的に: 第 34 条保全林に関して伐採等を行う場合、県知事の許可を得ている。又、伐採後は速やかに植林するようにしている。)
3	森林間伐等の実施促進に関する特別措置法(間伐等促進法)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	種の保存法	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	鳥獣保護法	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	騒音規制法	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	景観法	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	環境影響評価法	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	自然公園法(県立自然公園法 3 種)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

D.2 ステークホルダー (森林所有者、森林管 理者、森林管理費用 負担者等)のコメント	【プロジェクト対象森林の所有者が、プロジェクト代表事業者等に含まれない場合】 該当なし 【間伐促進型プロジェクトで、プロジェクト対象地に含まれない森林所有者がいる場合】 該当なし
D.3 その他特記事項	